



恵庭市では、今後の都市公園や都市緑地のあり方などを検討するため、令和5年11月に「恵庭市公園のあり方等検討委員会」を設置して議論を進めており、委員会での議論の内容や、市内の公園の現状、これからの公園のあり方などについて、市民の皆様と考え、共有する場として、令和6年3月16（土）に「公園のあり方シンポジウム2024～使われ活きる公園を目指して～」を開催いたしました。

多くの市民の方にご参加いただきましたこと、また、アンケートでは、たくさんの貴重なご意見をいただきましたことに、心より感謝申し上げます。

恵庭市役所 建設部 公園緑地課

恵庭市より報告（恵庭市の公園の現状と課題について）

▶恵庭市の都市公園の現状について

- ・総合公園や街区公園、公共緑地などを含めて177箇所の都市公園がある。
- ・恵庭市の人口増加は出生数が増えているわけではなく、宅地の開発などに伴う転入超過による社会増であり、今後は他市同様、減少することが見込まれている。
- ・公園事業の予算は、令和5年度実績で約5.4億円。指定管理料を含む公園管理費が2.1億円であり、その費用は年々増加傾向にある。
- ・恵庭市では官民連携の公園管理の先進的な取り組みとしてPark-PFIを取り入れた事業も行っている。
例) 花の拠点とはなふる内のホテルおよびスターバックスコーヒー、恵庭ふるさと公園内のカフェ
- ・恵み野地区の中心に位置する“恵み野中央公園”は、開設から38年が経過、施設の老朽化や周辺環境の変化に対応するため、再整備に取り組んでおり、現在、ワークショップなどを行い、方向性の議論を進めている。

▶恵庭市の都市公園における課題について

<課題1：公園利用者ニーズの多様化への対応>

- ・市内の人口増減について、駅周辺は増加傾向にあるが、それ以外は減少傾向にあり、地域によってバラつきがある。
- ・ここ数年で宅地造成などが急激に進んだことで、既存公園周辺の環境が大きく変化し、公園に求められるものも変わってきている。
- ・公園利用者のニーズも多様化している。
例) 公園でBBQをやりたいやボール遊びを禁止してほしい など

<課題2：管理運営の担い手の拡大>

- ・公園の維持・管理費用が年々増大している中で、公園美化活動などへの協力町内会は年々減少しており、公園を管理運営する担い手が不足している。

<課題3：公園における安心・安全の確保>

- ・全国的にも公園樹の老朽化は進んでおり、倒木による遊具の損壊などの被害も出ている。
- ・遊具の補修・更新は進んでいるものの、公園樹については対処療法的な対応にとどまっている。
- ・樹木に関する苦情、要望は年々増加している。

<課題4：公園トイレの役割の見直し>

- ・恵庭市内の公園トイレは全部で91箇所あり、その内、8割程度は老朽化が問題となっている。
- ・トイレ一箇所当たりの年間維持管理費は約20万円。91箇所ですべて1,700万円となっている。
- ・トイレ一箇所当たりの建替え費用は約1,500万円。91箇所ですべて約14億円が見込まれる。
- ・恵庭市では災害時の一時避難所として公園を設定しているが、一時避難所の選定に際し、トイレの有無は考慮されていないことを踏まえて、トイレのあり方の議論が必要。

▶課題解決に向けた検討について

今後の「恵庭市公園のあり方等検討委員会」のスケジュール

- | | | |
|--------------------------|---|---------------------------------------|
| 令和 5年11月：第1回 委員会（終了） | ↓ | 令和 7年10月：第6回 委員会 |
| ↓ | | ↓ |
| 令和 6年 1月：第2回 委員会（終了） | | 令和 7年12月：第7回 委員会
提案書提出（委員会 → 恵庭市長） |
| ↓ | | ↓ |
| 令和 6年3月：第1回 シンポジウム開催（今回） | | 令和 8年 2月：第2回 シンポジウム |
| ↓ | | ①基調講演 |
| ↓ | | ②提言内容の説明 |
| ↓ | | ③パネルディスカッション |
| ↓ | | |
| 令和 6年 5月：第3回 委員会 | | |
| ↓ | | |
| 令和 6年12月：第4回 委員会 | | |
| ↓ | | |



▲
シンポジウム当日の様子は「YouTube」で配信中です。

プログラム

第1部

基調講演

14:00

～

15:05

公園のこれまでとこれから

公立大学法人 札幌市立大学 デザイン学部教授 **椎野 亜紀夫**

公園が恵庭市民の“日常的な幸せ”を育てる場になるためには？

一般財団法人 地域活性化センター フェロー(NPOフュージョン長池 創業者) **富永 一夫**

公園と共に暮らすために～恵庭の子育てから見てきたもの～

認定NPO法人 まちづくりスポット恵み野 **平井 梓**

第2部

パネルディスカッション

15:15

～

16:30

<報告> 恵庭市の都市公園の現状と課題

恵庭市建設部 部長 **山下 宏治**

パネルディスカッション 使われ活きる公園を目指して

北海道文教大学 地域創造研究センター長 **小磯 修二**(モデレーター) 認定NPO法人 まちづくりスポット恵み野 **平井 梓**(パネラー)

公立大学法人 札幌市立大学 デザイン学部 教授 **椎野 亜紀夫**(パネラー) 恵庭市長 **原田 裕**(パネラー)

一般財団法人 地域活性化センター フェロー(NPOフュージョン長池創業者) **富永 一夫**(パネラー)



第1部：基調講演

【公園のこれまでとこれから：椎野様より】

国内外の特色ある公園や、小学生が描く理想の公園のイラストなど、現在の公園の役割や、これからの公園の形について、事例を交えてご講演いただきました。

【公園が恵庭市民の“日常的な幸せ”を育てる場になるためには？：富永様より】

東京都にある長池公園の指定管理者として、NPOフュージョン長池が行った活動の歩みを動画で拝見後、どの様にして「ふるさとづくり大賞」を受賞することが出来たのか、その仕組みについてご講演いただきました。

【公園と共に暮らすために～恵庭の子育てから見てきたもの～：平井様より】

2人のお子様を持つお母さんとして、恵庭で子育てをしてきた中で、実際に感じたことや、これからの公園がこんな風になってほしい等、利用者の視点からご講演いただきました。



▲ 第1部 基調講演

第2部：パネルディスカッション

モデレーター(進行)：北海道文教大学 地域創造研究センター長 小磯 修二 様

▶小磯様から原田市長へ

Q：各基調講演について一言ずつ、また、今後の議論への期待などお話をいただきたい。

- ・椎野様には、公園の役割ということで、存在効果や利用効果など、多面的な効果があること、また、国内外の公園をご紹介いただき、それぞれ特色があることが感じられた。
- ・富永様には、公園管理の実践者としての貴重なお話をいただいた。また、緑化フェアの際の恵庭市民のボランティア力についてもお褒めいただき、これを365日実践できるような、市民みんながコンシェルジュになっては？といったご提案も。
- ・平井様には、子育て世代の公園利用者の立場からご講演をいただき、公園は子どもにとって、将来の思い出の場、ふるさとの中心的な場であることを念頭においた公園づくりも必要なかもしれないと感じさせられた。
- ・恵庭市の公園に関する予算の状況として、老朽化が進む遊具の更新費用を令和4年度から増額（約3,000万円→約8,000万円）しており、令和6年度から10年間は、毎年約1億円ずつ公園施設の更新に充てる計画としている。また、前述とは別に街区公園の再整備（全面リニューアル）を毎年2公園ずつ、10年間（令和5年～令和14年）で20公園予定している。それに加えて、恵み野中央公園の再整備も計画しており、ワークショップなどを通して、抜本的な解決に向けて取り組んでいる。公園は子どもからお年寄りまで、色々な使われ方が想定されるが、それぞれの公園の特色を把握することや、公園の維持管理に地域の方々も参加していただけるような公園づくりを目指して、今後の委員会でも引き続き議論を進めたい。

▶小磯様から椎野様へ

Q：様々な事例をご紹介頂いた中で、これを恵庭に当てはめたら面白いと思うことがありましたら、教えていただきたい。

- ・費用対効果をいかに高めるかが課題。
- ・私たちがよく利用する街区公園は、その多くが30年以上経過している。当時は子どもの遊び場として児童公園には「すべり台、ブランコ、砂場を必ず設置しなければならない」というルールがあったが、現在はそうではない。公園は子どもの遊び場と捕らえていたものが、多世代が利用するという位置づけになってきている。
- ・保育園への聞き取り調査から、年代によって必要な施設が変わる。例えば、乳児は芝生があれば良かったり、幼児は小さな築山があれば充分楽しめたり。平井講師からお話があったように、必ずしも遊具があれば子どもが喜ぶかというところではない。
- ・公園周辺の環境によって公園に求められるものも大きく変わるため、周辺の方からの要望を丁寧に聞きとって進めることで費用対効果を上げることができる。
- ・事例でも紹介したように、子どもたちから公園のアイデアを募り、改修の一部に反映すると、自分で作ったものが公園の形になり、地域への愛着につながる。
- ・行政がすべて決めるのではなく、子どもたちに関わってもらうことで、自分事として捉えてもらう機会が生まれるのではないかと。

⇒小磯様から一言

ニーズの汲み取りや、対応の仕方については、手間が掛かってしまうものだが、そこに手間を掛けることで結果的に費用対効果の高いものが出来上がる。

▶小磯様から富永様へ

Q：恵庭には公園コンシェルジュが必要というご提案について、お話をいただきたい。

- ・全国どここの公園を見てもコンシェルジュ機能をもっているところはない。特別なシーンで特別なヒアリング（アンケートなど）を取ることにはある。
- ・ホテルに例えると、フロント（公園コンシェルジュ）とバックヤード（行政）があり、本来はフロントがお客（市民）のニーズを聞いて、バックヤードが考えて仕事をする。しかし今はフロントが無い状態で、行政のハード整備だけ進んでいるのが全国的な公園の現状。
- ・まずは、お客（市民）のニーズを聞くことができる仕組みづくりが必要では。その役割は我々のような市民協働を考えるNPO団体などが担うのが良い。
- ・公園コンシェルジュの形は恵庭固有モデルとして恵庭らしく決めると良い。
- ・多様な公園管理の方法であったり、いかにお金をかけないように出来るか、恵庭市民の皆さんと一緒に創意工夫して考えていきたい。

⇒小磯様から一言

動画の中でボランティアの方が「ボランティアではなく遊んでいる感覚」とお話していたのが印象的であり、楽しく公園管理に関わってもらえるような仲間を、コンシェルジュのような形の中でいかに仕掛けて集めていけるかが重要。

▶小磯様から平井様へ

Q：市民としての想いをお聞かせいただきたい。

- ・ボールの使用を禁止してほしいという苦情があることに驚いた。反対に子どもが思いっきりボール遊びできる公園があると良いと思う。
- ・大きい子どもたちが、小さい子どもに気を使って（ボール遊びやスケートボードなど）我慢するような状況がある。子どもたちが我慢せずに遊べる公園づくりをするには、大人たちの理解が必要。小さい公園に関しては、公園の住み分け、目的別の使い分けも必要だと考える。

⇒小磯様から一言

目的別に公園を住み分けするなど、恵庭市独自の公園づくりを目指しても良いのでは。

▶小磯様より

北海道文教大学地域創造研究センターの立場から考える今後の公園の役割について

- ・地域創造研究センターは、地域の活性化のため、自治体と大学の連携をより強くして、自治体の政策にも研究をとおして関わっていく。このような強い関係の基盤づくりを目的としている。
- ・恵庭のまちづくりの1つのキーワードとして「文化創造」を掲げている。これは、地元にあるちょっとした資源を「文化資源」として改めて再認識することで、そこに価値をつけて、これからの都市発展に繋げたい。
- ・文化創造都市を考える中で「公園」を活用するとすれば、例えばカリバ遺跡とカリバ自然公園を結びつけるような政策や、恵庭の最大のブランドである「花」というイメージを公園で展開していくなど。
- ・ラビダスやエスコンフィールドの動きの中で、恵庭が目指すべきは居心地の良さという都市づくり、空間づくりであり、そこに公園という空間を位置づけることで、公園活用の議論がさらに進んでいくと考えている。

Q：最後に今後の「公園のあり方等検討委員会」について、どのように議論を進めてほしいか。

一言ずつご意見をいただきたい。

椎野様： これからは、デザインの多様性、利用の多様性などをいかに実現していくかが「使われ活きる公園」づくりに必要。今後のリニューアル工事の際には、1つの公園にすべての機能を集約させるのではなく、例えば小学校区ごとに個性ある公園を配置するなど、多様性への対応を検討していただきたい。

富永様： 恵庭という宝石箱の中に大・中・小の宝石（公園）を散りばめるように、公園ごとの魅力を磨いていく。そのためには、まず、公園の現状を公園カルテで把握し、そこに処方箋を出してあげること。それらすべてを人間の手で行うのではなく、生成AIなども活用したいが、恵庭市だけでそれを進めるのは困難なので、国レベルの方々を巻き添えにしていければ。そうして出来上がった個性いっぱい公園が恵庭という一箇所に集まり、すべての多様性に対応できるような、そんな野望を抱いている。

平井様： まずは公園のマップがあって、市民が公園を知るところからスタートすると良いのでは。

また、小・中学生からの意見は、大人と違う意見も多いので、時間は掛かってしまうが、色んな立場の方から意見を聞いて作りあげることで、自分の家の近くにある公園が自慢の公園になるようにできれば、恵庭の市民力向上に繋がると思う。

▶小磯様から原田市長へ

Q：本日のシンポジウムでは、色々な夢のある議論や思いきった提案もございましたが、最後に市長からお話をいただきたい。

原田市長： 本日まで登壇いただいた方々は、公園のあり方等検討委員会の委員のため、委員会での検討結果が大変楽しみである一方、実現できるか不安で少し怖い気持ちも。今後の公園のあり方を考える取組みは、恵庭市でも初めての試みであり、これから住む人、生まれてくる子どもたちのためにも、この機会を活かして公園づくりを進めていきたい。

⇒小磯様から一言

市長の立場として、本日の議論の全てを受け止めるのは難しいと思うが、夢を語りながら、その中の1つでも2つでも形にしていく、このプロセスが大事だと思う。公園行政について、検討委員会を設置して前向きに議論している自治体は少ないので、この前向きさをぜひ受け止めていただければ。



▲ 第2部 パネルディスカッション

